

○1番（中村 等君） 皆さん、おはようございます。

議長の許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

私は町議会議員補欠選挙にて当選させていただきました。ご支援いただきました方々に感謝いたしますとともに、先輩議員の皆様には敬意を表します。また今後、町長、副町長、教育長、町執行部の皆様、どうかよろしく申し上げます。

議員としてはや1カ月以上が経過しました。選挙公約の、高齢者がいきいきと活躍でき、またいじめなどのない豊かな生涯教育の推進、町予算の皆様が本当に望む有効な活用、大規模災害に備え、地震・風水害等を検討し、計画的なまちづくりをしっかりと実現できるように取り組んでまいり所存でございます。

私は議員として仲間に入れていただいたことを感謝し、初心を忘れることなく、先人が養った故郷を次世代にきちっと継承するために、町民の方々に可能な限りお会いさせていただき、一期一会の精神を忘れることなく、皆様の声、意見をお聞かせ願ひ、しっかりと町政に取り組んでまいり所存でございます。

また、先輩議員の皆様を差し置きまして、今回、順序が2番目との栄誉をいただきました。まだまだ未熟で若輩者ではございますが、精一杯論点を明確にしながら一般質問をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞ時間内、よろしく申し上げます。

質問は、地域防災計画についてでございます。

我が国はこれまで何度も大きな地震が起こり、多くの方が亡くなったり、建物が壊れたりしました。また、地震が発生しますと、津波や火災などが起きることもあります。私たちの住む東員町では津波の心配はないと思っておりますが、平成28年4月14日以降に、東員町のような内陸地の熊本県と大分県で相次いで発生した熊本地震は、震度7を観測する地震が4月14日及び16日未明に発生した他、最大震度が6の地震が2回、6弱の地震が3回発生しました。

内陸型、いわゆる断層型地震で、マグニチュード6.5の地震の後にさらに大きな地震が発生するのは、地震観測が日本において開始されました明治18年以降初めての事例であり、また同地点で震度7が2回観測されるのは初めてのことでございました。

14日の地震は日奈久断層の活動、16日の活動は布田川断層の活動によるもので、隣接する2つの断層帯が連動することで発生した連動型地震と見られます。東員町の東側にも岐阜県垂井町から桑名を経て四日市市までの間、約60キロの桑名養老四日市の断層帯があり、断層帯の位置全体が1つの区間として活動し、マグニチュード8以上の地震が発生すると想定され、その後、断層の歪みが生じ、土地の隆起が6メートルほどと推定されております。

また、町の東側には鈴鹿東岸断層帯が、岐阜県養老郡、上石津町からいなべ市、菰野市、四日市市、鈴鹿市を経て亀山に至る34キロから47キロの活断層があり、熊本地震のように東南海地震が起き、連動することで発生する連動型地震の可能性がございます。

さて、災害の種類には地震ばかりではなく、日本には毎年のように台風がやってきます。予期せぬ大雨や強風、洪水、土砂崩れなどが起きることがあります。

気象庁は昨年7月は、30年に一度の異常気象であったと述べ、近年、地球温暖化が進行し、

大雨や顕著な高温が長期的に増えている、将来も増えると予想されていると説明しました。東南海地震も将来必ず起きると予想されております。

そこでこれらに対応するため、東員町の防災・減災を町政の中心に位置付けるとともに、ハザードマップの住民理解等、防災教育を含めた防災計画についてお聞きします。

次に2番目として、災害時における飲料水、食料、紙おむつ、生理用品等の備蓄品も含めた災害協定、活用及びトイレ等の設備についてをお聞きします。

3番目に地区の特性、年齢構成などを把握した、きめ細やかな防災についてでございます。東員町は地形的に北部には丘陵地帯、南部には員弁川があり、それぞれの地域に応じ、防災対策が必要です。町内は防災上、がけ崩れが予想される地域、高齢化が進む地域、学校がある地域など、様々な特徴があります。防災上の観点から地域の繋がり構築が大切だと感じております。

最後に4番目として、災害時における機能的で、かつ時代に即応するのが可能な職員の養成について。

以上4つについて、ご答弁をお願いしたいと思います。どうかよろしくお願ひします。

○議長（三宅 耕三君） 東員町水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 地震防災計画についてのご質問にお答えをさせていただきます。

昨年6月28日から7月8日にかけて、前線や台風7号の影響により、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となり、全国各地で甚大な被害が発生をいたしました。

近年は地球温暖化の影響もあり、ゲリラ豪雨や台風などによる大雨など、また平成7年の阪神淡路大震災から始まった大規模地震等による甚大な災害が全国で発生をいたしております。

30年以内に高い確率で発生すると予想されている東南海トラフによる大規模地震も大変心配なものであります。

私たちはこうした自然災害を未然に防ぐことはできませんが、備えをしっかりとっておけば減災に繋がり、被災後の的確な動きに繋がることは重要であると考えております。

一昨年、県内の洪水浸水区域の見直しが行われました。本町では千年に一度のそういう規模の大雨が降ると予想される場合、予想される最大の浸水区域は員弁側右岸の大部分が浸水するとの予測が示されております。これを受け、検討する中、議会の皆様からも貴重なご意見をちょうだいをいたしまして、ハザードマップの改定を行って、本年3月には町民の皆様へ配布をさせていただいたところでございます。

本町ではこうした災害を想定し、毎年9月に総合防災訓練を実施いたしており、毎年、場所を変えて訓練をしていただいております。

こうした取り組みは地域防災計画により実施しておりますが、その実効性を確保するため、災害発生時において、職員がどの業務を優先的に実施するかなどをあらかじめ定めておく業務継続計画、いわゆるBCPも策定をいたしました。

また、各地域の防災訓練には職員が出向いて、防災・減災対策について、住民一人ひとりが理解を深めていただくような取り組みや、町と自主防災組織及び学校関係者により避難所運営

の協議をする校区会議の開催、消防署や消防団との連携強化への取り組み、防災担当職員の教育のため、各種研修への派遣、ハザードマップの配布など、こういったことを実施いたしております。

これからも町民皆様の生命・財産を守るため、いざというときに備えた防災・減災対策に努めてまいります。

残余につきましては担当課長から答弁をさせていただきます。

○議長（三宅 耕三君） 環境防災課、三林隆宏課長。

○環境防災課長（三林 隆宏君） おはようございます。

それでは中村議員の地域防災計画について、町長からの答弁と重複する部分もあるかと存じますが、具体的な内容につきまして、私の方からお答えをさせていただきます。

まず初めに防災・減災につきまして、町民の生命・身体・財産を守るためには、全町的に取り組まなければならない町政の中心であるべきことと考えております。防災に関する最新の情報をお知らせすることは、その一つではございますが、災害時、要支援者への配慮なども、関係各課との連携により実施をしてございます。

また、防災教育に関しましては、職員を対象とした各種訓練や様々な研修への参加など、引き続き実施しております。

次に、災害時における食料等の備蓄や災害時の物資の供給に関する協定に関しましては、現在、町でも食料等の備蓄を進めているところではございますが、町の備蓄品だけでは不足をいたします。このことから、災害時には食料等の物資を優先的に供給いただける事業者との協定締結を進めておまして、昨年度には、新たに2つの事業所との協定の締結をさせていただいたところでございます。

次に、地区立地等の特性、年齢構成などを把握したきめ細やかな防災につきましてでございますが、町として、それぞれの地域の特性等を把握したきめ細やかな配慮というのは、やはりこういう災害時、非常時でございますので、実質的には、それぞれというのはなかなか難しいところではございます。

ただ、しかしながら自主防災組織などで、地域特性などを把握しておられる方も当然みえます。災害時に有利なところや不利なところ、そういうところを把握していただくことは非常に重要であると考えておりますので、先ほど町長の答弁でありました、年1回学校区単位で行われている校区会議、ここには自治会長、校区の学校長、教頭先生等も参加いただいておりますので、こういう中で議論をいただくよう働きかけていきたいと思っております。

次に、災害時における機能的で、かつ時代に即応する対応が可能な職員の養成につきましてでございますが、防災担当職員につきましては、災害対策本部の運営に関する研修、被災地への派遣など、積極的な参加をしてございます。

また、国から発信される最新情報などにも敏感に反応しながら、様々な状況に対応できる職員の養成に引き続き取り組んでまいりますので、ご理解賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（三宅 耕三君） 中村議員。

○1番（中村 等君） 大変よくやっただいていただいているんだなと感心しておるところでございます。

ただ、ハザードマップなどの地図が各世帯に配られておるのは当然ですが、非常に細かく、見にくい部分もございます。できれば簡易版と言いますか、避難経路などを含めた図を、広報などの最終ページに載せるとか、積極的な、そのような簡易版を広報などで毎月少しずつ発信していかれたらどうかと思うんですが、その辺についてはいかがでしょう。

○議長（三宅 耕三君） 環境防災課、三林課長。

○環境防災課長（三林 隆宏君） 再質問にお答えをさせていただきます。

ハザードマップ、確かに細かい部分がございます。これに関しましては、自治会からも自主防災活動の中で、それぞれの自治会で訓練をしていただいております。その中で町職員もそこへ呼んでいただいております、このハザードマップだけではないんですが、それぞれの防災・減災対策について、パワーポイント等を使いながら説明もさせていただきますので、そういうところを通じてさせていただきたい。

この防災につきまして、その他、いろいろ伝えていかなければならない最新情報もございますので、これは広報、ホームページを通じて、いろんな形で、わかりやすくと言いますか、そういう特集も組みながら周知できればと考えておりますので、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

○議長（三宅 耕三君） 中村議員。

○1番（中村 等君） これから考えていただけるということで、ぜひとも進めていただきたいと思います。

自治会の方の広報などの場合、最近、自治会に加入されていない方もおみえです。こういう方々も住民であることには何ら変わりはありません。ぜひともそういう方たちにも届くように、きめ細やかな防災の広報をお願いしたいと思っております。

次に、まず職員の教育についてでございますが、職員の方、我が東員町は三重県の北部に位置しております、町の中央を員弁川が流れ、北部に行くにつれて標高100メートル前後の緩やかな丘陵を配しております。東は桑名市、西はいなべ市、南は四日市市に隣接しております総面積22.68キロメートルの行政地域でございます。

このような町の形状を考えますと、無線等の通信手段はもちろん大切なことなのですが、近年、ドローンなどの活用によって、現場をいち早くつかむことができると思います。お聞きしましたところ、消防署の方にもお願いして、ドローンは使えるというような回答を前、いただいたんですが、ぜひとも職員の方もそのような研修をしていただいで、ドローンを購入するのはまたお金の要ることですので、いろいろあるかと思いますが、いざというときに消防職員だけではなくて、町の職員も活躍できるような形の教育をされてはいかがでしょうか。

○議長（三宅 耕三君） 環境防災課、三林課長。

○環境防災課長（三林 隆宏君） ありがとうございます。

東員町の場合、よく使われるのは孤立住宅が発生したときの状況をつかむとか、そういうときにドローンを使われるケースがあります。ただ、先ほど言われましたように、災害の状況を空から確認できるというのも非常に重要なことだと考えております。

今現在、町ではドローンを含めた空撮を業とする、職業にしてみえる方と災害協定も結ばせていただいて、町の総合防災訓練の中で一緒に参加していただいております。そういう中で、現在はそういう形でやらせていただいております。

先ほどちょっと消防署ということでありましたが、東員消防署では、まだそこまでの整備はされておられません。そういう消防署もあるということをお聞きしております。

ただ、今後、ドローンの価格もだんだん安くなってきた、あるいは操縦も非常に使いやすくなってきたという部分もございますので、そのあたり、消防署さんがそれを使っていたかというのも一番いいことだと思いますし、いざとなれば町職員も使えるというのも、これは非常に有利なことと考えますので、今後の課題として検討してまいりたいと思いますので、ご理解いただきますようよろしくお願いします。

○議長（三宅 耕三君） 中村議員。

○1番（中村 等君） ありがとうございます。

それともう1つなんですが、災害協定について、少しお尋ねしたいと思います。

災害協定が大きな小売店の方と契約されておるとするのは、防災協定の本を見せていただいていたのですが、できれば最近、近くにありますがコンビニですとか小さな商店など、個人経営もございますので、難しいのかもしれませんが、流通の確保ができるのは生活弱者、または高齢者の方には、そこまで行くのも大変だということもあろうかと思っております。できればそのような形で進めていただくことはできないでしょうか。

○議長（三宅 耕三君） 環境防災課、三林課長。

○環境防災課長（三林 隆宏君） 災害協定、いろいろな大手のスーパー等とは進めさせていただいております。町内の近隣、ほぼと言うか、1つを除いて、大体結ばせていただいております。当然、商工会さんとも結ばせていただいております。

先ほどご提案がありましたコンビニ等、小さい店になりますと、協定を結んでおるという周知をしてしまいますと、災害時に、協定を結んだからタダで持っていてもいいんやというようなことになっても困ります。あまり数が多くなり過ぎますと、職員がいろんな物資の供給の、こういう物を欲しいという依頼をして提供をいただくことになりますので、あまり多ければいいというものではなくて、確実にこちらの指定した場所に届けていただくという事業者をお願いした方が、いわゆる緊急時、災害時でございますので、パニックの起こらないような形でさせていただきたいと考えておりますので、今、コンビニ等につきましては考えてないのが現状でございますので、ご理解いただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（三宅 耕三君） 中村議員。

○1番（中村 等君） 災害協定について、再度、お尋ねいたします。

最近、粉ミルクではなくて液状ミルクと言うんですかね、災害時にはそのようなものが確保できるとか、紙おむつが確保できるとか、そのような協定の状態はどのようになっておりますでしょうか。

○議長（三宅 耕三君） 環境防災課、三林課長。

○環境防災課長（三林 隆宏君） お答えさせていただきます。

現在、町では粉ミルクでございます。本当にリアルタイムでございますが、6月に三重県の備蓄調達基本方針というのが改定されました。この中で、今、粉ミルクから液体ミルクに備蓄品を変えていく、それを提供するというような方針も出されておりますので、私ども協定をさせていただいている事業者についても、いわゆる粉ミルクじゃなくて液体ミルクを入れていただけたところもありますので、そういうところも、すぐに使えるというのは非常にメリットがある、水も何も要らなくて、すぐに飲んでいただけるというところがありますので、そういうところと密に連携していきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（三宅 耕三君） 中村議員。

○1番（中村 等君） 災害の時には大変困られる方がおみえになると思いますので、その辺の周知の方もしっかりとお願いしたいと思っております。

最後に一つだけ、東員町は三重県の北部に位置しておりますので、大変丘陵地帯でなだらかなところでございます。もし地震等が起こった場合、冒頭でもお話をしましたが、断層等に挟まれた形になっております。ということは、いなべ市の方、または桑名市の北部の方が東員町へ避難されてくる場合もあるかと思えます。そのような避難された方を選別することはできません。町の備蓄だけでは大変だと思いますので、そういうふうな形で各家庭でも自助と言うか、自分の方で備えていただくような啓蒙活動も、ぜひともお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

○議長（三宅 耕三君） 環境防災課、三林課長。

○環境防災課長（三林 隆宏君） 先ほど申されましたように、今、桑名地区も含めまして、災害の連携について、同じタイムラインをもって進めるような形で協議を進めておるところでございます。

先ほど言われましたように、災害備蓄品、発災直後3日間は、いわゆる自助・共助・公助とありまして、公助、町が、いわゆる公共が用意できる物は7割で、あと3割につきましては自助・共助というところで、いわゆる自分で用意していただくということが大事だと思います。ただ、その3割が、必ず非常食を蓄えておいてくださいということだけではなくて、通常、冷蔵庫とかインスタント食品等、あとお米とか、普通のご家庭にも何日か分は当然あります。それも含めての3割でございますので、そういう考えであるということでございますが、当然いろんな面で、備えあれば憂いなしということでございますので、今後も今まさに発表が最近あったんですが、南海トラフを震源とする地震、30年以内に発生する可能性が7割やったのが、7割から8割と、ちょっと範囲があるんですが、少し確率が高くなりました。そういうこともございましたので、そういう啓発も、これは忘れない間隔でと言うか、常日頃からやっていき

たいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（三宅 耕三君） 中村議員。

○1番（中村 等君） ありがとうございます。

先ほどおっしゃられたように、食料だけが自助で、自分で備蓄するものではないかと思えます。例えば母子、乳幼児のみえる方につきましては母子健康手帳であったりとか、保険証のコピーであったりとか、そのようなものも必ず避難袋と一緒にして自分で用意しておくとか、そのようなことが必要になるかと思えます。

そのような場合でも、なかなか先ほど言われたように、私も含めて備蓄と言いますと、食料だけためておけばいいんや、けがしたときの傷のテープだけでいいんだと考えがちですが、高齢者の方には、高齢者の方がどこへ連絡したらいいかという連絡先の、例えば171とか、そういう番号を書いて袋に入れておくとか、そういうのを必ずするような形になるようにご指導していただいて、住民の方の命を少しでも災害時に守れるような取り組みをしていただきたいと思っております。

今後も、まだ私もなかなか勉強不足で、全てを把握しているわけではございませんが、防災については起こり得るということがわかっておりますので、その辺につきましては、また質問をさせていただくことがあろうかと思えます。どうぞよろしく願いして、私の質問を終わらせていただきます。

どうもありがとうございました。